

REPORT

令和元年度 おかやま文化芸術アソシエイツ調査研究事業 「文化芸術交流実験室」報告書

令和元年度 文化庁 文化芸術創造拠点形成事業



公益社団法人 岡山県文化連盟

おかやま
文化芸術アソシエイツ



おかやま文化芸術アソシエイツ

岡山県文化連盟が持つ既存のネットワークを生かして、岡山県の各地域で生活する我々がその地域の文化を構成する資源(ヒト、コト、場所、お金等)についてよく知り、地域の未来を見据えた新たな価値の創造と多様なステークホルダーの共生について思考するために、平成29年度から始動した地域アーツカウンシル機能です。プログラム・コーディネーターとともに、以下のような取り組みを実施しています。

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの周知、参画の促進及びbeyond2020プログラムの認証

文化団体等の活動に対する助言、支援

3
調査事業の実施

4
文化活動に係る研究会、勉強会、講演会などの実施

本書では、③県内の文化芸術資源を発掘、再評価、活用するための調査事業の一環として実施した「文化芸術交流実験室」のレポートと、そこから得られた情報を中心に令和元年度の取り組みを中心に報告します。

実施体制

主催 おかやま文化芸術アソシエイツ(公益社団法人岡山県文化連盟)・岡山県
令和元年度文化庁文化芸術創造拠点形成事業

プログラム・コーディネーター 大月ヒロ子

事務局(公益社団法人岡山県文化連盟) 岡野千鶴、高田佳奈、高津雅子、剣持宏子、小澤博子

運営協力 一般社団法人ノマドプロダクション

協力 Libra beauty、くるみダンスファクトリー(第18回)、吉備路文学館(第19回)、久米南町産業振興課、パーマカルチャーセンター上鞆、くめなんタクシー(第20回)、奉還町4丁目ラウンジ・カド、アーツカウンシル東京(第21回)、津山市観光振興課、津山市都市計画課、(有)シード・プロジェクト、Nishilma25(第23回)、高梁市図書館、茶やまのび堂、(一社)岡山県地域おこし協力隊ネットワークOEN(第24回)、いかしの舎、生活介護事業所ぬかつくるとこ&マンチャン(万殿雄也さん)(第25回)、橋本パン教室(第26回)、EXCAFE(第18回、第19回、第22回)



大月ヒロ子

(有)イデア代表取締役
一般財団法人地域創造 公立美術館活性化事業企画検討委員、キッズデザイン審査員

板橋区立美術館学芸員を経て独立。1989年、ミュージアムづくり、展覧会監修、遊びと学びの空間デザインを行う(有)イデアを設立し、数多くの公立ミュージアムの設立・運営に関わる。2013年に日本初のクリエイティブリユースの実験室IDEA R LABを倉敷市玉島オープンし、国内外でプロジェクトを展開している。「まるをさがして」他、著書多数

文化芸術交流実験室

岡山県内の優れた文化・芸術資源を掘り起こし、その価値を県民の皆様にも再認識していただけるよう、調査研究事業を行いました。

調査の過程で得られる新たな情報や人材データをもとにして、文化・芸術と他分野との連携による新たな取り組みの提案と、ソーシャルインクルージョンの視点に基づいたレクチャーとワークショップを定期的に開催し、県内の人材や文化資源の領域横断を誘発する出会いの場の創出とネットワーク構築を目指しています。

この実験室に期待するのは、文化芸術コミュニティ内での交流はもちろん、福祉や教育、まちづくりなど様々な分野との交流に文化芸術の創造性を生かした新しい取り組みが始まり、すべての人が文化芸術を楽しむことができる岡山が生まれることです。

※第1回～第5回は平成29年度、第6回～第17回は平成30年度に実施

第18回 モード写真の世界

日時 | 2019年6月30日(月)11:00～17:00

開催地 | 天神山文化プラザ(岡山市北区天神町 8-54)

講師 | 北山由紀雄(岡山県立大学デザイン学部 准教授)

協力 | 加藤マリ子(メイクアップアーティスト、Libra beauty 代表)
平野昌子(ダンサー、くるみダンスファクトリー 代表)

参加者数 | 16名

第19回 映画制作の現場

日時 | 2019年7月12日(金)19:00～21:00

開催地 | 吉備路文学館(岡山市北区南方 3-5-35)

講師 | 竹井政章(映画・テレビの制作担当)

本田孝義(映画監督)

参加者数 | 44名

第20回 建築探偵団 其の参『土との対話』

日時 | 2019年7月28日(日)11:00～16:00

開催地 | パーマカルチャーセンター上叡(久米郡久米南町上叡863)

講師 | カイル・ホルツヒューター(一級左官技能士、生物資源科学博士)

協力 | 石田尚昭(建築家、公益財団法人岡山市スポーツ・文化振興財団 常務理事)

参加者数 | 15名

第21回 お金の仕組みから考える文化芸術の支援

日時 | 2019年9月28日(土)11:00～16:00

開催地 | 奉還町4丁目ラウンジ・カド(岡山市北区奉還町 4-7-22)

講師 | 今野真理子(公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 企画室 企画助成課 シニア・プログラムオフィサー)

高田佳奈(公益社団法人岡山県文化連盟 主任)

参加者数 | 35名

第22回 ことばから紐解く歌の世界

日時 | 2019年10月20日(日)11:00～16:00

開催地 | 岡山県天神山文化プラザ(岡山市北区天神町 8-54)

講師 | 遊興亭福し満(落語家)

太田三郎(アーティスト)

参加者数 | 20名



各回の内容をまとめた広報用リーフレット
(デザイン: 川路あずさ)



各回のゲストがテーマに応じて行うレクチャー



対話から体験まで、学びを身体化するワークショップ



食事をする時間も設け、じっくりと参加者同士が交流

第23回 社会とアート～ひきうける美術～

日時 | 2019年11月23日(土)11:00～16:00

開催地 | 衆楽園 迎賓館(津山市山北 628)

講師 | 太田三郎(アーティスト)

宮本武典(キュレーター)

参加者数 | 15名



参加者同士の対話の時間を多く設けたプログラム

第24回 地域おこし協力隊が育む岡山の文化芸術!

日時 | 2019年12月1日(日)13:00～16:00

開催地 | 高梁市図書館 多目的室(高梁市旭町 1306)

講師 | 藤井裕也(NPO法人山村エンタープライズ代表)

協力 | ハブヒロシ(高梁市地域おこし協力隊/金ノプロペラ舎)、相澤麻有子(元笠岡市地域おこし協力隊/麦稈真田研究家)、豊島りえ(備前市地域おこし協力隊/国際コーディネーター)、西原千織(高梁市地域おこし協力隊/茶やまのび堂 店主)、甲田智之(元真庭市地域おこし協力隊/作家)

参加者数 | 34名



岡山県内外で活躍する講師が登場

第25回 人にとって表現とは何なのか

日時 | 2020年1月26日(日)11:00～16:00

開催地 | いかしの舎(都窪郡早島町早島1466)

講師 | 嘉納礼奈(芸術人類学研究者、アーツ千代田3331 社会包摂型芸術支援事業チーフ)

木ノ戸昌幸(NPO法人SWING 代表)

中野厚志(ぬかつくるとこ 代表)

参加者数 | 40名



文学×音楽、美術×福祉など分野横断的なテーマ設定

第26回 ファシリテーション・グラフィックで振り返る、これまでの実験室

日時 | 2020年3月4日(水) 18:00～20:30

開催地 | 天神山文化プラザ(岡山市北区天神町 8-54)

講師 | 藤 浩志(美術家、秋田公立美術大学大学院教授)

名畑 恵(NPO法人まちの縁側育くみ隊 代表理事)

参加者数 | 27名



振り返りもファシリテーション体験を取り入れ実践的に

文化芸術交流実験室18 モード写真の世界

日時:2019年6月30日(月)11:00~17:00

開催地:天神山文化プラザ(岡山市北区天神町8-54)

講師:北山由紀雄(岡山県立大学デザイン学部 准教授)

協力:加藤マリ子(メイクアップアーティスト、Libra beauty 代表)

平野昌子(ダンサー、くるみダンスファクトリー 代表)

写真の世界の中でも、モード写真はちょっと特殊なジャンルにあるといえるでしょう。時代感覚や、最先端の美意識などが、いち早く盛り込まれ、最終的には、様々な媒体に乗って世の中に広く流布されます。また、これはチームで作る写真であるとも言えます。

アートディレクターのもとに、写真家、写真家のアシスタント、モデル、スタイリスト、ヘアメイクアーティストなどが集い、撮影に臨みます。構成を考え、最終的な媒体に沿う仕上がりに向けて撮影する写真は、ドキュメンタリーやスナップ写真とはどのように違うのでしょうか。ワークショップではその違いの一端を味わってみます。

北山由紀雄…岡山県立大学デザイン学部准教授。大学では写真に関する授業を担当。倉敷フォトミユラルを企画し、プロデューサーを務める。2007年より、岡山県美術展覧会写真部門審査員。日本写真学会、日本写真芸術学会所属



レポート

会場は、岡山市北区のカルチャーゾーンにある天神山文化プラザ。当日は朝から大雨の予報が出ていましたが、午後からは雨が上がり、キラキラした日差しが眩しい絶好の撮影日和に。

最初に北山さんが、モード写真とはいったいものかを、モードを牽引してきた世界的な写真家の作品を紐解きながら解説。全てが自由で束縛がないからこそ、挑戦的・挑発的な作品が展開され、時代を先行するドライブ感を写真の数々から肌で感じ取りました。次に撮影の手引きとして、アンリ・カルティエ・ブレッソンのスナップ写真に見られる計画された偶然性が撮影のヒントとして紹介されました。

続いて、本日モデルになってくださるダンサーの平野さん、ヘアメイクアップを担当される加藤さんからお話を伺います。こうしたワークショップのモデルになるのは初めてという平野さんから、ダンスでの表現方法や作品への関わり方について伺いました。加藤さんは、普段の撮影では事前に作り込むことの多いヘアメイクを、今回は即興的に作り上げていくとのこと、どんな仕上がりになるのか期待が膨らみます。

ランチの後、撮影場所のロケハンを行いました。天神山文化プラザの屋上からロビー、吹き抜けなど前川國男建築の特徴的な空間をじっくり観察し、写真をイメージします。さらに隣接する岡山県立美術館の中庭や、裏手にある公園にも足を運んでよいアングルを探しました。

一度会場に戻り、撮影の計画づくりです。まず、撮影場所の絞り込みと、そこでどんな写真を撮影するかを議論。撮影手法をどうするか、どんなストーリーができるか、グループそれぞれに話し合います。場所と撮影の方向性、役割分担が決まったら、いよいよ撮影スタート。

加藤さんのヘアメイクによってドラマティックに変身した平野さんにどんなポーズをとって欲しいか、どんなことを表現して欲しいのか説明し、レフ板を持つ人、カメラで撮る人が交代して試行錯誤しながらみんなで撮影に挑戦します。

撮影が終わったら、部屋に戻って「とっておきの一枚」を選びます。平野さんの身体表現が素晴らしく、どちらのグループも一枚に絞り込むのに時間がかかりましたが、なんとか選んだ写真を、北山さんが簡単に画像処理を施し、最後にみんなで鑑賞しました。



「モード写真」について解説する北山さん



プロのメイクアップで、どう変身するのかな?



撮影の様子。まるで別世界!

ヒト・コト・場所



岡山県立美術館

かつて岡山城が築かれた岡山市北区天神町に位置する美術館。1988年、岡山市天神山地区の県有施設跡地の再開発事業として岡山県によって開設された。設計は最高裁判所などで有名な建築家の岡田新一が担当、同建物は第3回公共建築賞優秀賞を受賞した。岡山にゆかりのある優れた美術品を収集・展示し、内外の芸術活動を紹介する展覧会やワークショップを開催。《創る、学ぶ、集う、守る、繋ぐ》広場として、地域の芸術文化の発展に貢献していくことを目的としている。

提供：岡山県



土光敏夫先生記念苑

岡山市出身のエンジニアで東芝会長、経団連会長を勤め、国鉄民営化などの行政改革を推進し、「メザシの土光さん」と親しまれた土光敏夫の業績を讃え、1991年に岡山市北区天神町に整備された公園。彫刻家淀井敏夫の彫刻「飛躍」が中心に据えられ、傍らには「思索のテーブル」と題する石のテーブルと椅子がある。彫刻の台座とテーブルの石は万成石製



天神町エリア

天神山と呼ばれていた小高い丘で占められ、天神町、鷹匠町、弓之町、上之町のそれぞれ一部を含むエリア。江戸時代は岡山新田藩の政庁や藩主・家臣の屋敷地があった武家屋敷町だった。近代には戦災前まで岡山県庁や県会議事堂、岡山東警察署が並ぶ官庁街だった。現在、東端の城下筋周辺は天神山文化プラザ、岡山県立美術館、オリエント美術館などの文化施設が多く集まり、カルチャーゾーンと呼ばれている。石川文化振興財団によるアートホテルプロジェクト「A&A」のひとつがオープンするなどの動きもある。

ワークショップ

ランチ

- ・講師も交えてみんなでざっくばらんに、アイスブレイク。
- ・食事はつむぎコッペのコッペパン。おかずパンとデザートパンの1種類ずつ。
- ・ドリンクは、EXCAFEの特製フレッシュジュース。バナナとアサイーを、リサイクルカップで。

モード写真撮影会

- ①天神山文化プラザおよび周辺で、魅力ある場所を探す。どこで、どう撮るのかを検討(ロケハン)
- ②撮影での役割分担を決める(順番、カメラマン、ディレクター、レフ板担当)
- ③現場にてグループで撮影(カメラの感度を上げ、レフ板等も活用)
- ④室内に戻り、撮影した写真を1枚セレクト
- ⑤講師による画像処理
- ⑥それぞれのグループ作品を鑑賞

参加者コメント

- ・普段、ヘアメイクさんもらっしやる撮影を見ることがなかったのでとても楽しかったです。写真、ヘアメイク、ダンスそれぞれの世界に触れることができ、学びになった。(30代/女性/フォトグラファー)
- ・実際にプロのメイクアップアーティストやダンサーの方と撮影することができとても贅沢で面白かった。(50代/女性/自営業)
- ・みんなで作品を作る難しさ面白さを感じた。(40代/女性/公民館職員)
- ・普段できない経験。写真の奥深さを垣間見ることができた。(50代/男性/公務員)

講師コメント

今回はモデルの素晴らしさをストレートに生かした写真が多かったが、どちらのグループもより大胆に写真を選び、作品をつくりあげてよかったかもしれない。デジタルになったから画像処理で何でもできるが、逆に厄介で、どうしたらいいのかわからなくなる。撮影枚数も、今日は比較的少なかった。通常は今日の10倍は撮影するので選ぶのはとても大変な作業になる。

最終的に選ぶ1枚は、10回、100回繰り返し見ても飽きないものがいい。良い写真もまた、美術作品と同じで、多くの人の目に耐えられるものが本物で、時代を超えた普遍性を持つからである。今回皆さんには、特に「選ぶ」ことの難しさを体験してもらったように思う。



文化芸術交流実験室19 映画制作の現場

日時:2019年7月12日(金)19:00~21:00

開催地:吉備路文学館(岡山市北区南方3-5-35)

講師:竹井政章(映画・テレビの制作担当)、本田孝義(映画監督)

岡山出身の映画監督と、その中学時代の同級生でもあった映画の制作担当者。岡山の自由律俳句の夭折の俳人、住宅顕信を描いた『ずぶぬれて犬ころ』では、共に協力して映画を作りあげました。そんな映画作りの現場では、何が起きているのでしょうか。

また、監督の仕事は想像しやすいですが、制作という仕事は多岐にわたり想像し難いものです。映像の仕事を目指す若い人々には特に知ってほしい映画制作を支える様々なプロの事細かな仕事のあれやこれやを、第一線で活躍されるお2人からうかがいます。

竹井政章…1969年岡山県生まれ。1989年東京衣裳納入社。1994年からフリーランスの制作として主にフジテレビのドラマ・映画に携わる。主な作品に、映画『県庁の星』(2006年、高梁市でロケ)、『HERO』(2007年)、『ミックス』(2017年)、『ずぶぬれて犬ころ』(2018年)、『コンフィデンスマン JP』(2019年) など

本田孝義…1968年岡山市生まれ。1992年法政大学文学部日本文学科卒業。大学在学中から、自主映画の製作・上映を始める。ドキュメンタリー映画の製作と並行して現代美術展でも映像作品を発表。主な作品に『船、山にのぼる』(2007年)、『モバイルハウスのつくりかた』(2011年)、『山陽西小学校ロック教室』(2013年) など



レポート

この回は、休日の予定が立てにくい方も参加しやすい、平日夜のトーク。通常 17:00まで開館している吉備路文学館では、映画『ずぶぬれて犬ころ』(住宅顕信)上映記念企画展を開催中。映画に登場する顕信の句やメイキングの様子、小道具などの展示を特別に見ながら、参加者は開演を待ちます。トークは映画を監督した本田さんが進行役となりながら、その制作を担当した竹井さんのお話をメインに進められました。2人は赤磐市の中学校の同級生だったことが縁で一緒に仕事をされたそうです。

まずは「制作」という仕事の位置づけや具体的な内容について。制作は監督の元で、作品を実際に形にするための現場の裏方。本田さん曰く、岡山で制作の人材を探そうと思っても、映画製作の本数が少ないこともあり、専業の方を捕まえるのが難しいそうです。竹井さんも、普段は東京を拠点にされています。他にも大別すると、カメラや録音など撮影に関わる「技術」。衣装・メイクや小道具など映るものに関わる「美術」という立場の仕事が現場にはあります。制作はロケ時の予算管理はもちろん場所の選定・地図作成、ロケ車、お弁当の手配、地方ロケなら宿泊・移動手段の手配など多岐にわたります。その中でもロケ場所の選定は重要です。竹井さん曰く「監督のイメージは勿論のこと、そこに自分のイメージも加味していき『台本にある文章を具現化』していく仕事」であり、大変なことが多いけれども、作り手のひとりとして楽しく関わることができ、達成感があるそうです。

『ずぶぬれて犬ころ』における制作エピソードも聞くことができました。苦労の鍵は、予算の少なさ。岡山で撮影されたこの映画ですが、例えば東京から来る技術スタッフはハイエース 1台で来るようにして、宿泊場所にはロケにも使える家を使う。岡山在住のスタッフから様々な家財や小道具、物を借りるなどの工夫が必要でした。また重要だった病院での撮影については岡山県フィルムコミッション協議会を通して探したそうですが、予定していた病院の撮影環境が厳しくなり、急遽探し直したとのこと。結果として、別の病院の 2フロアを無償で借りることができ、場所性や予算面ではもちろん「監督が落着いて撮影できる環境を確保できた」と竹井さんはそのポイントを話していました。

竹井さんは、普通であれば助監督が行うスケジュール管理、美術が担当するような特殊効果も一部担当する、アシスタントをほぼつけずに仕事をこなすなど通常より数倍の役割を果たしたそうです。他にも小学校や個人宅での撮影エピソード、予算もある撮影の場合のやり方など、制作を軸に様々な話題に話が及びました。最後には本田さんから「こうした仕事があるということを知ってもらえるとうれしいけど、その大変さを感じさせないのがいい作品だと思っています。」という視点も提供されました。



閉館後の吉備路文学館が今回の会場



「制作」「技術」「美術」の仕事を説明する竹井さん



映画の監督を務めた本田さん

ヒト・コト・場所



吉備路文学館

1986年、中国銀行が創立50周年を記念して設立した文学博物館。明治以後の吉備路ゆかりの小説家、歌人、詩人、俳人、映画人などの著書や資料を収集・展示している。講堂や、朗読会などに使える研究室などのスペースもある。館の四囲をめぐる庭園は石橋や石塔、燈籠、巨木など古くから当地の武家屋敷にあったものを生かし、疎水も旭川支流の西川より引き入れ、戻している点などが見どころ。江戸時代の吉井川大土木遺跡「田原井堰」の石組みを一部譲り受けて作った滝もある。

<http://www.kibiji.or.jp/>



映画『ずぶぬれて犬ころ』

5・7・5の字数にとらわれない自由律俳句を詠み、22歳で浄土真宗の僧侶となり、25歳で生涯を閉じるまでに281の句を残した岡山市出身の俳人・住宅顕信。その人生を、生きづらさを感じながら生きる現代の中学生と重ね合わせて描いた作品。同郷の顕信の俳句と人生から「生きる」というメッセージを感じ、本田孝義監督がオール岡山ロケで製作。2018年7月完成、同11月に岡山映画祭で初上映し、2019年6月から全国で順次公開している。

<https://zubuinu.com/>



シネマ・クレール

岡山シンフォニーホール南向かいにある、岡山では数少ないミニシアター。2スクリーンで170の座席数で、週ごとに上映ラインナップを調整するなどしながら、国内外の多様な作品の上映を行なっている。1994年にシネマ・クレール石関が開館(2008年閉館)し、2001年に新館としてオープンしたシネマ・クレール丸の内が現在の館となっている。2019年5月に『ずぶぬれて犬ころ』の先行公開を行い、7月にはアンコール上映も行なった。

<http://www.cinemaclair.co.jp/>

ワークショップ

ドリンク

- ・顕信の好物だったというクリームソーダ。クリームの代わりに雪見大福を使った EXCAFEさんのオリジナル。
- ・映画に出てくる喫茶店は、奉還町で実際にクリームソーダをメニューとして提供しているお店で、営業時期を考えても顕信が実際に利用していた可能性が高いお店だそうです。



参加者コメント

- ・普段聞くことのできない制作の裏側をきくことができてよかった。(50代/女性/会社員)
- ・制作の裏側や監督の想いも知ることができて楽しかった。(30代/女性/介護福祉)
- ・展示も同時に見ることができて良かった。(20代/女性/大学生)

講師コメント

制作について少しでも知って、興味を持っていただけたらうれしい。やる気と熱意があればすぐに始められる仕事なので、いつでもこの世界に飛び込んで欲しいです。(竹井)

監督がいくら偉そうなことを言っても、実際に思ったように撮影できるかどうかは、制作の仕事にかかっています。なかなか表に現れにくい仕事ですが、今回の講演がこれから岡山県で撮影される映画やドラマの参考になれば幸いです。(本田)

パーマカルチャーとは、オーストラリアのビル・モリソンとデビット・ホルムグレンが構築した持続可能な環境を作り出すためのデザイン体系のことです。県内にはアメリカからやってきたホルツヒューターさんを中心に活動するパーマカルチャーセンター上叆があり、里山の地形を読みとき、日本古来の伝統的な建築や農業の技術も活かしながら、エコロジカルな暮らしの実践やワークショップを行なっています。

今では土や水と切り離された住環境で生活をする日本人も多くなりましたが、土との対話を大切にしながら、生活を整えていくパーマカルチャーの手法について、実践現場を見せていただきながら、未来に向けての暮らしをみんなで考えたいと思います。

カイル・ホルツヒューター…日本大学の建築・地域共生デザイン研究室でストローベイル建築、土建築を研究、日本各地でリフォームと新築を施工、ワークショップ指導等を担当。天然素材で日本家屋の断熱効果・熱性能の改善、日本の左官文化の保存及び海外への紹介に取り組んでいる。更に2017年からは、環境デザイン学習センター、パーマカルチャーセンター上叆を立ち上げ、持続可能な社会作りのデザイン手法、暮らし方を広める活動に努めている。



レポート

「会館」「団地」と建築をテーマにしてきた探偵団シリーズ第三弾は「土との対話」。久米南町の山奥で2017年から活動するパーマカルチャーセンター上叆を訪ねました。作業がしやすいよう、真夏ながら長袖・長靴・帽子・手ぬぐいをまとった参加者が集まりました。

まずはカイルさんの案内で、パーマカルチャーとは何なのか。敷地の一帯を歩き、レクチャーとガイドをいただきながら理解を深めます。パーマカルチャーはパーマナント(永続性)と農業(アグリカルチャー)、文化(カルチャー)を組み合わせた造語で、単に有機栽培などを行うということではなく、自然のシステムを生かし、人間が生活するために必要な衣・食・住・エネルギー・経済・コミュニティなど一連の要素をつなげるデザイン手法だとのこと。日本の里山に残されている伝統的な生活の知恵や技術の中にも、これに通じるものが多くあります。

例えばゾーニング(区域計画)。生活の中心となる母屋に近いエリアによく使うものを配置したり、こまめに収穫する野菜を育てたりします。セクター(区分計画)は、太陽光・風・水などエネルギーや物質をどのように敷地に取り入れて利用するかという観点。ため池の北側には、水面に反射した太陽の光が当たるため、特に光を必要とする植物を配置します。熱を蓄え日が沈んでも周囲を温めてくれる石垣もうまく利用します。トイレはコンポスト式。おが屑を撒いて匂わなくした状態のものをためて、微生物の力で1年かけて堆肥にします。使用する果樹の近くに配置。おが屑は、製材所に頼んで分けてもらっているそうです。

ひと通り勉強した後は、午後のワークショップに備えて手作りピザで腹ごしらえ。用意いただいた生地を各自で伸ばし、トッピングしたものを窯で焼きます。ピザを焼いた後の窯も、温度が下がってからパンを焼き、その次は芋、最後にドライフラワーなどと、熱エネルギーを有効に使えることを教わりました。

午後は2つのグループに分かれて、「屋上緑化の軽量土づくり」「塗壁の荒壁づくり」を順番に体験。汗を流しながら、籾殻・堆肥・藁・土といった材料を建物の一部として使用する術やメリットを学びました。安く買えるようになった建材などを使えば、時間的には早くできることとあえて時間と手間をかける作業。自分たちが生活する環境の持続可能性について考える時間となりました。



久米南町の山奥が今回の会場



コンポストトイレの仕組みを説明するカイルさん



塗壁の荒壁づくりに挑戦

ヒト・コト・場所



パーマカルチャーセンター上叆(かみもみ)

岡山県久米南町の4haの農林宅地を拠点として、2017年4月にカイル・ホルツヒューターらがスタートさせた、パーマカルチャーの学びと実践の場。海外からパーマカルチャーを学びに来る人から学生、DIYに興味のある一般人まで。様々な人に場を解放しながら、参加型で環境整備を進めている。農村・棚田保全や地域の産業振興、移住促進につながる活動にも取り組む。通称「パミモミ」。

<https://www.facebook.com/PermacultureKamimomi/>



岡山県内の棚田百選

岡山県の中央部に位置する久米郡は、瀬戸内地域を代表する稲作地帯であり、棚田が多く見られる。1999年に農林水産省が全国134地区から認定した「日本の棚田百選」には次の4地区が認定されている。美咲町大坪和西(おおはがにし)・美咲町小山(こやま)・久米南町北庄(きたしょう)・久米南町上叆(かみもみ)。上叆棚田は22ha/1,000枚、天候の良い日には瀬戸内海が遠望できることもある。大坪和西棚田は42.2ha/850枚、谷全体の360度すり鉢状に広がり、公園や周遊コースも整備されている。

ワークショップ

手づくりピザ

- ・用意されたピザ生地に打ち粉をまぶして薄く伸ばし、ふちを回しながら形を整える。
- ・オリーブオイル、トマトソースを順に生地の上に伸ばして、具を薄く広げる。

屋上緑化の軽量土づくり

- ・籾殻と牛糞堆肥を1対1の割合で攪拌器へ入れてよく混ぜ、軽量土をつくる。
- ・フネに載せて運び、防排水の下準備をした屋上に12cmほどになるように敷き詰める。

塗壁の荒壁づくり

- ・足や鍬を使い、フネの中で荒土と藁、水をよく混ぜて荒壁土をつくる。
- ・コテと板を使い、壁の芯となる竹組みに絡ませるように荒壁土を塗りつける。
- ・反対側の面は、翌日など乾燥しきらないうちに塗りつけ一体化させる。
- ・塗りやすく調合を変えたもので中塗を行い、漆喰などで仕上げる。

参加者コメント

- ・自然とのつながりを取り戻すのは、古いようでこれからのライフスタイルになっていく、全ては繋がっていると思いました。(50代/女性/自営業)
- ・ひとつひとつの物事を大切に生活するという事を改めて考え直すきっかけになりました。(40代/女性/文化団体職員)
- ・作業を実際に体験できたのが楽しかった。(40代/女性/民泊運営)

講師コメント

パーマカルチャーについて少しでも知って、興味を持っていただけたらうれしい。些細なことから生活に取り入れることもできるので、この世界に飛び込んできて欲しいです。(カイル)



お金の仕組みから考える 文化芸術の支援

日時:2019年9月28日(土)11:00~16:00

開催地:奉還町4丁目ラウンジ・カド(岡山市北区奉還町4-7-22)

講師:今野真理子(公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 企画室
企画助成課 シニア・プログラムオフィサー)、高田佳奈(公益社団法人岡山県文化
連盟 主任)

文化芸術の分野もお金とは無縁ではありません。人的・精神的サポートも大切ですが、プロジェクトの経費や、グループ運営のための人件費、調査や準備のための旅費など、実施に伴う資金が必要になって困ったという経験をされた方は多いのではないのでしょうか。

公的・私的な助成金、最近はクラウドファンディングを活用して支えようという動きも盛んになってきました。サポートのバリエーションや仕組みを知り、文化芸術活動を疲弊せず継続させられるよう、ワークショップを通して考えてみましょう。

今野真理子…東京芸術大学大学院美術研究科(絵画専攻)修了後、英国ウォーリック大学大学院欧州の文化政策と運営学ディプロマ修了。ダンスカンパニーでの制作アシスタントを経て、国際文化交流機関、国際舞台芸術祭、国際美術展、公共劇場等に文化事業の企画制作運営や助成プログラム運営に関わる。2014年4月より現職

高田佳奈…県施設の指定管理業務、行政からの委託事業、多様な主体との協働事業を行うほか、公立小中学校で子どもたちに本物の文化体験を届ける学校出前講座のチーフコーディネーターとして、年間約200件実施する学校出前講座を総括。2017年度からは中国地方初の地域アーツカウンシルとなる「おokayama文化芸術アソシエイツ」を担当し、プログラム・オフィサーを兼務。認定ファンドレイザーとして相談業務やマネジメント研修の講師も多数務める。



レポート

岡山駅西口の商店街にある、奉還町4丁目ラウンジ・カド。文化芸術とお金の仕組みをテーマとした回に、文化芸術の実演・つくり手の方、施設運営などで携わる方、行政関係者などが集まりました。

まずは高田からのイントロダクション。文化芸術活動には課題解決型と価値創造(提供)型がある点、活動をただやっているだけでは資金獲得できない点、その価値をうたう際に本質/社会/経済的価値という切り口が考えられる点、助成金や地域アーツカウンシルのような仕組みと「公益」の考え方についてのポイントを語りました。文化芸術基本法、2020年東京オリンピック・パラリンク、ダイバーシティ(多様性)、ソーシャルインクルージョン(社会包摂)など最近の傾向も解説。文化や芸術の「よさ」は、当事者しか伝えることができないので、「価値の言語化」を試みるワークショップでは、誰のためにやっているのか、それをどのように表現すれば伝わるのかを意識して取り組んで欲しいと狙いを伝えました。

続いて、今野さんよりご自身のバックグラウンドやアーツカウンシル東京について紹介。合わせて東京都や、文化庁など国、地方公共団体の文化予算などの状況にもふれ、いよいよ本題に。資金調達(ファンドレイジング)について考えるにあたり、資金の種類(寄付・会費収入/助成金・委託金など/事業収益)や特徴、その望ましいバランスを知ります。助成金については、例えばアーツカウンシル東京では「東京芸術文化創造発信助成」「芸術文化による社会支援助成」など、個々の助成事業にミッションがあるため、助成する側の意図を理解することが重要である点、「コネ」は効かないが「関係づくり」は有効である点などを解説。他にもどのような助成金が知られているのか、代表的なものや情報サイトなどを紹介いただきました。寄付についても、会員制度自体の設計、遺贈寄付、マンスリーサポーター制、もったいない寄付(物品)など様々なアプローチがあるとのこと。「いかに共感を得て、支援者を巻き込み、それを持続させるか」。どのようなプロジェクトがファンドレイジングに強いのかも確認した上で、参加者それぞれが関わる活動について「ヴィジョン・ミッションを言葉にする」ワークショップを行いました。

また、ファンドレイジングを進めるステップも紹介。組織の潜在力のチェック・棚卸/既存・潜在的寄付者の分析/理事・ボランティアの巻き込み/コミュニケーション方法や内容の選択/感謝・報告・評価が重要である点を解説した後に、ワークシートで一部その計画について考える時間も設けました。言語化が難しい芸術文化についての様々なキーワードをもらい、多くの事例や具体的な情報も知ることができる有意義な1日となりました。



奉還町4丁目ラウンジ・カドの2階



ワークシートの説明をする今野さん



参加者同士で対話する時間も設けました

ヒト・コト・場所



奉還町4丁目ラウンジ・カド

2016年 9月オープン。奉還町商店街の路地に入る一角にある、まちのラウンジをコンセプトにしたスペース。西へ50mに位置する姉妹店のとりいくぐる Guesthouse & Loungeとも連携して、旅行者や地域住人、イベント企画・参加者をゆるやかにつなぐ活動をしている。簡単な食事とお酒、喫茶を提供。ラウンジ内には本や雑誌、古い地図、レコードがあり、利用者は自由に閲覧、試聴などを行うことができる。「nawateアーカイブ」「奉還町みんなのサロン」など地域にねざしたプロジェクトや、様々なイベント企画や受け入れ(レンタル)も行なっている。
<https://www.lounge-kado.jp/>



奉還町商店街

岡山駅西口から徒歩圏の好立地に位置する、アーケードのある商店街。明治維新の際、廃藩置県により失職した池田藩の武士たちが手にした奉還金ではじめたお店が中心となったことが名前の由来とされている。第二次世界大戦の際に空襲に見舞われたため、ほとんどが戦後に開店した店。約 80業種 170店が並ぶ。比較的家賃の安い物件が多いことや呼び水効果もあり、近年では若手オーナーによる飲食店やショップ、イベントスペース、ゲストハウスなども増えてきている。
<http://www.houkancho.com/>

ワークショップ

ランチ

- ・ラウンジ・カドの野菜たっぷりプレート
- ・手羽元と冬瓜の煮込み、茄子と小松菜のサブジ、切り干し大根とひじきのサラダ、焼きネギのマリネなど

ヴィジョン・ミッションを言葉にする

- ・活動の Vision と Mission を簡潔に文章化してワークシートに記入する。
- ・Vision (あるべき社会の状態／めざす芸術創造環境のすがた)
- ・Mission (それを実現するために自分が担う役割、すること)
- ・隣の席の方に内容を共有する。
- ・自分の組織 / 活動に持ち帰り仲間と話し合う。

ファンドレイジング計画の作成

- ・目標、スタートの活動、うまくいかなかったとき、責任者などを決める。
- ・ワークシートに書かれたステークホルダーピラミッド(サークル)を使い、自分の活動のまわりにどのような人がいるのかを書き込んで整理する。
- ・中心は理事や運営スタッフ。会員など一緒にやっている仲間、支援してくれている方、イベント参加者、メディアなどがそれを囲んでいく形になることが多い。
- ・これから繋がっていききたい人たちも含めてよい。



参加者コメント

- ・考え方と具体的なアドバイスが両方あってわかりやすかった。これまでは寄せ集めだった自分の知識を整理することができた。(50代/女性/文化施設関係者)
- ・表面的にしか知らなかった助成について、リアルに学ぶことができて良かった。(30代/女性/アーティスト)
- ・ワークショップで他の参加者と対話したことで、今までの活動を見直すきっかけになった。(40代/男性/会社員)

講師コメント

「ヴィジョン・ミッションを言葉にする」ワークショップの際に参加者の皆さんの溢れる熱い思いが伝わってきて感服し、元気をもらいました。それぞれの思いの言語化によって、活動の発展に向けて新しい気づきがあったのではないかと思います。(今野)

助成金申請はラブレターと同じです。参加された皆さんそれぞれの中にある文化芸術に対する溢れんばかりの愛を、決して独りよがりではなく、より客観的に言語化することができたなら…。文化芸術の"よさ"をいかに言語化するかは、私自身の課題意識でもあります。(高田)

歌の世界に息づく「ことば」に着目し、テーマを決めてリサーチしてみると、どんなことが見えてくるでしょうか。たとえば「手紙」という言葉が出てくる歌にはどんなものがあるでしょう? 「絵」という言葉ではどうでしょう? 探してみると、意外に沢山作られていることに気づきます。

今回は無類の音楽好きの、アートと落語の世界のお2人に水先案内人となっていただき、カラオケセットも用意して、めくるめく「ことば」の海に漕ぎだすユニークな歌のワークショップを行います。

遊興亭福し満…静岡県生まれ。1998年遊興亭福し満の名で初高座。2002年『つやま芸術祭』に地元の江戸時代の絵師に構想を得た自作噺『飯塚竹齋』で参加。2009年春夏秋冬に笑門来「福」の会を開催。『怪談・乳房榎』(全編)『鯉沢』『怪談・牡丹灯笼』(全編)など三遊亭圓朝作の噺に取り組み始め、以後、独演会や地方公演等を行う。三遊亭圓朝作の人情噺、怪談噺に取り組み一方「楽しく心が軽やかになる噺」も追及し続けている。

太田三郎…山形県生まれ。国立鶴岡工業高等専門学校機械工学科を卒業し、1984年より切手と消印を用いて「時間」と「場所」の関連性をテーマに作品を制作。1994年から岡山県津山市を制作拠点に活動が続いている。戦没兵士や中国残留日本人孤児、被爆者、世紀の遺書など太平洋戦争に題材を得た「POST WAR」シリーズをはじめ、写真や植物の種子を素材とした作品など、様々な表現方法で作品を手がけている。



レポート

今回の会場は、天神山文化プラザの地下練習室。音響・カラオケ機器がセットされた会場に、太田さんと和装の福し満さんが現れ、不思議な雰囲気の中で22回目の実験室がスタートしました。

まずはお2人のトーク。午後に行うカラオケを使ったワークショップは、25年前に世田谷美術館で教育普及を担当していた福し満さんの依頼により、太田さんがはじめて行ったワークショップが元になっているそうです。それまで同様の経験が無く、作品制作とは直結しない、話すことに苦手意識があったという太田さん。企画者として第一人者であった福し満さんと相談を重ねていくうちに、うまく喋ることができなくても成立する内容、また歌をテーマにした展覧会にからめての提案となったそうです。

当時はカラオケをすることは、最後まで秘密にしていたこともあり、意外性もあって大盛り上がり。参加者とは、今でもことあるごとにカラオケに行くなどの交流が続いているそうです。福し満さんは、「歌を歌うというのは原始的な行為、声だけでなく選曲でも自分をさらけ出すことになり、人の本質が出る」とその奥深さを語ります。

太田さんは、ワークショップで取り上げる歌謡曲の歌詞について、具体的に紹介をしていきます。歌謡曲を主な対象としているのは、身近なことが歌われているから。例えば作品に使っている郵便切手や手紙がどのように歌われているか。松任谷由実「まちぶせ」にはラブレターが、島津豊「ホテル」では不倫的一幕として「手紙を書いたら叱られる」という歌詞が出てくるなど。また太田裕美「木綿のハンカチーフ」に歌われている田舎と都会の価値観を逆にした替え歌「続・木綿のハンカチーフ」を考えてみるとどのように聞こえるか、など。福し満さんは、「まちぶせ」はよく聞いていると「ストーリーみたいな怖さのある歌詞。右から左にながれている歌詞を眺めていると、歌の色々な側面が見えてくる。」、また歌われがちな価値観についても「男と女で捉え方が違うものなど、つつこみどころが多いものがある。」と指摘。会場の参加者は歌詞が出る度に「なるほど。」「わかる!」と活気づきました。

ランチの後はいよいよ、参加者へも事前に問いかげがあった歌謡曲の歌詞について発表とカラオケの時間です。さだまさし「関白宣言」の内容には時代錯誤な違和感があり、実際に「関白失脚」という別バージョンがあること。ピンクレディー「UFO」でなぜ宇宙人との恋愛が歌われたのか。中島みゆき「空と君のあいだに」で騙されるのは女、騙すのは男とあるが逆の方が多く気がしてリアリティがないなど。多様な意見とともに、講師、参加者入り乱れて熱唱の時間となりました。



太田さん(左)、和装で登場した福し満さん



中島みゆきを熱唱する太田さん



歌詞に注目しながらカラオケを楽しみました

ヒト・コト・場所



天神山文化プラザ

岡山県民の芸術文化活動・文化情報発信の拠点として、展示室、ホール、練習室、会議室、文化情報センターを備えた文化施設。岡山県文化連盟が指定管理者として施設の運営・管理を行っている。1962年6月に、岡山県総合文化センターとして開館。建物の設計は、モダニズム建築の巨匠・前川國男によるもので、屋上庭園、ピロティ、吹き抜けレリーフなど、当時のモダンなデザイン手法が随所に見られる。



創作落語『飯塚竹斎』

2002年に開催された「つやま芸術祭」参加のため、太田三郎の誘いを受けて遊興亭福し満が制作した創作落語。津山藩士で南画家としても知られる飯塚竹斎(1796～1861)を題材にしている。飯塚は江戸津山藩に生まれ、12歳で津山に。16歳で広瀬臺山の門下となり、津山藩御用絵師となるなど、津山を代表する画人となり、後進にも大きな影響を与えた。65歳で死去。落語は以後も、津山城や、飯塚の作とみられる襖絵があるギャラリー、カフェ、民泊施設「Nishilma25」で再演されるなどしている。

ワークショップ

ランチ

- EXCAFEさんのランチボックスと、笠岡諸島の食材を使ったスープ

カラオケで歌ってみる

- 歌謡曲の歌詞で違和感を感じるものを調べてくる。
- アイウエオ順で調べて来た曲と、その内容を発表する。
- カラオケで実際に歌ってみる。

参加者コメント

- 思ったとおりのことと、思ってもみなかったこと、どちらも楽しく面白い体験だった。(40代/女性/システムエンジニア)
- 人の感じ方、自分の感じ方(鈍感になっている時もある)に気づけたのが面白かった。(40代/男性/会社員)
- ひたすら楽しかった。(50代/女性/自営業)

講師コメント

「歌謡曲」は軽んじられがちな分野かもしれないが人間の本音がちりばめられている。逆にパターン化している歌詞もあり疑ってかかる必要もある。一筋縄ではいかない歌の世界を楽しみたい。(太田)

最近では歌番組も減り好みも細分化されてしまい、共有する機会が無くなってきている。落語もですが使われている「言葉」を感じてもらいたい。(福し満)



私たちは生きていく上で様々な痛みを抱えながら生活しています。大きな災害がもたらす死や離散、日常の中で生まれる家族間の問題などに対して、アートはどのようにふるまえるのでしょうか。

今回は身近な大人に虐待されて亡くなった子どもたちを取り上げた太田さんの作品を鑑賞したり、宮本さんが手がけられてきた震災や中山間地での企画についてのお話をうかがいます。それぞれのライフヒストリーをもとに小さなオブジェも制作。鑑賞・対話・制作・展示と濃い時間を共に過ごします。

太田三郎…山形県生まれ。国立鶴岡工業高等専門学校機械工学科を卒業し、1984年より切手と消印を用いて「時間」と「場所」の関連性をテーマに作品を制作。1994年から岡山県津山市を制作拠点に活動している。戦没兵士や中国残留日本人孤児、被爆者、世紀の遺書など太平洋戦争に題材を得た「POST WAR」シリーズをはじめ、写真や植物の種子を素材とした作品など、様々な表現方法で作品を手がけている。

宮本武典…奈良県生まれ。2019年 3月まで東北芸術工科大学教授・主任学芸員として、地域に根ざした協働型アートプロジェクトや、東日本大震災の復興支援プログラムを数多く企画・実施。「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ」(2014, 2016, 2018) ディレクター。東根市公益文化施設まなびあテラス芸術監督。2019年 4月より角川文化振興財団クリエイティブディレクターとして、角川武蔵野ミュージアム(2020年開館)の立ち上げに参画



レポート

今回の会場は、紅葉が美しい津山の廻遊式庭園・衆楽園。庭園を望むことのできる迎賓館には、太田さんの作品も展示され、参加者を迎えました。

まずは宮本さんからのプレゼンテーション。共同体の痛みから生み出される作品、その痛みを「ひきうける」という今回のテーマは、東日本大震災の後から意識するようになったそうです。山形から宮城・石巻へ 1年半ほど瓦礫撤去の活動で通っていたことなどから、震災を受けて活動しようとする様々なアーティストからも連絡を受け、泥水に浸かったピアノを作品として再生することで、亡くなった方に向き合う向山朋子さんのプロジェクトなどをキュレーションしたそうです。

山形出身の絵本作家・荒井良二さんとは、3.11を語りつく絵本『東北未来絵本』を震災 1周年を機に制作されました。プロの表現ではなく、「(物資が手に入らず) ホットケーキばかり食べていた」など、様々な市民が自分たちの言葉でリアルに当時の様子をつづったそうです。他にも、ミロコマチコさん(絵本作家)、和合亮一さん(詩人)、川村亘平斎さん(ガムラン奏者/影絵師)らと被災した人々が共同制作したプロジェクトを紹介。「つながりをつくるもの、いろんな人が参加できるものが、3.11当時は欠かせなかった。」と宮本さんはしめました。

ランチの後は、太田さんのプレゼンテーション。太平洋戦争で行方不明になった兵士の像、中国残留日本人孤児、広島に被爆した地蔵などを形にした《Post War》シリーズ、生命や種子の關係に着目した《Seed project》など、切手や手紙の形式で作品の制作を続けています。《Post War》は発表後反応が大きく、戦争についての様々な思いをつなぐものとしての作品が「求められている」と感じるものがあつたそうです。

当日展示された太田さんの作品《石の小箱》の話にも。切手状の紙片には、虐待により亡くなった子供の名前と死亡時の年齢・年号が記されていて、箱の中には小さな石を納めています。太田さん曰く、石はお骨をイメージしていて、年齢に応じて大きさを選んだりしているそうです。

ワークショップでは、参加者がそれぞれにもつストーリーに基づいた形を掌サイズで制作。祖母の介護に使っていた鈴、母がいつもつくってくれていたオニギリなど、出来あがつた形を観察し合いながら、言葉でもその内容を共有しました。



痛みを「引き受ける」作品について話す宮本さん



太田さんの作品《石の小箱》



車座になり、制作した形に関わるストーリーを言葉で共有

ヒト・コト・場所



衆楽園(旧津山藩別邸庭園)

津山市役所前に位置する、国指定名勝の廻遊式庭園。無料で一般開放されており、市民や観光客に親しまれている。津山藩森家 2代目藩主・長継が、明暦年間(1655～ 57)に京都から作庭師を招き、京都御苑内にある仙洞御所を模して作庭したといわれている。元禄 11年(1698)松平家が藩主となって以後幕末まで、家臣や他藩・他家からの使者を謁見するための御対面所または、藩主の隠居所の庭園などとして使われ、明治 3年(1870)に「衆楽園」と命名、一般公開された。庭園の大半を占める池に浮かぶ島の配置や水面に映る島影の美しさ、四季折々の樹木の枝ぶりに、洗練された美を感じることができる。



Nishilma25(にしま うえんさんく)

江戸時代から受け継がれてきた、出雲街道沿いの町家建築を活用して、2018年にオープンしたギャラリー、カフェ、民泊施設。津山藩士で南画家としても知られる飯塚竹斎の作とみられる襷絵がある。展示だけでなく、コンサートや落語会なども開催。カフェでは地元の食材を使ったランチ、天然酵母のパンなどを提供している。

ワークショップ

ランチ

- ・地元野菜を使った Nishilma25のランチボックス
- ・津山名物の五大北天まんじゅう

掌編集をつくる。

- ・「ひきうける」をテーマに、自身の物語を粘土でモノにしてみる。
- ・自らの体験に基づき、掌サイズで制作する。
- ・形を観察し合いながら、その物語を共有する。
- ・太田さんの《石の小箱》の隣のテーブルに並べて展示する。

参加者コメント

- ・自分のことを改めて振り返ったり、参加者のエピソードに共感したりと濃い時間を過ごすことができました。(40代/男性/公務員)
- ・人と芸術、社会との関わりという大切なことを扱っていて良かった。(40代/女性/アーティスト)
- ・参加者の中で場や体験、記憶について語らう時間も多く、楽しかった。(20代/女性/会社員)

講師コメント

喋りにくいことも形にしてみると、ものを通して語ることができるようになる、言葉が引き出されていくことがある。ものをつくるという力の可能性を考えていきたい。(宮本)

参加者がつくった、手のひらに乗る小さなオブジェは、つくり手からさまざまな物語りを紡ぎだしました。小さな作品が持つ大きな力を感じました。(太田)



文化芸術交流実験室24

地域おこし協力隊が育む 岡山の文化芸術!

日時:2019年12月1日(日)13:00~16:00

開催地:高梁市図書館 多目的室(高梁市旭町1306)

講師:藤井裕也(NPO法人山村エンタープライズ代表)

協力:ハブヒロシ(高梁市地域おこし協力隊/金ノプロベラ舎)、相澤麻有子(元笠岡市地域おこし協力隊/麦稈真田研究家)、豊島りえ(備前市地域おこし協力隊/国際コーディネーター)、西原千織(高梁市地域おこし協力隊/茶やまのび堂 店主)、甲田智之(元真庭市地域おこし協力隊/作家)

2019年は地域おこし協力隊制度ができて 11年目にあたります。これまで岡山県内では累計 344人の隊員の方々が活動されてきました。それぞれの地域に暮らしながら現場を見つけてきた隊員や隊員経験者に集まっていただき、岡山の文化芸術の魅力や可能性を語っていただきます。

藤井裕也…岡山県出身。大学在学中にアジア各国で教育支援活動に従事。卒業後、美作市地域おこし協力隊などを経て2015年 NPO法人山村エンタープライズを設立

ハブヒロシ…東京造形大学卒業後、馬喰町バンド等と共に音楽活動を行い 2017年高梁市に移住。郷土芸能の伝承など多彩な活動を行う。

相澤麻有子…長野県出身。2016年から 3年間、笠岡市地域おこし協力隊に着任。笠岡市内の帽子会社で帽子職人として仕事をしながら、麦稈真田の調査と発信を続けている。

豊島りえ…兵庫県出身。大学卒業後にオーストラリアに移住。バイリンガル・国際教育に力を注ぐ。家族で岡山県に短期留学し、地方の魅力にひかれて備前市教育協力隊に着任

西原千織…東京都出身。日本茶インストラクター取得後、お茶の在来種や番茶文化に魅せられ国内外を巡る経験を経て、高梁市の地域おこし協力隊に着任

甲田智之…大阪府出身。結婚を機に真庭市へ移住し、地域おこし協力隊として郷原漆器や漆に関わる活動を開始。著書の執筆や童話の連載など、作家・ライターとしても活動



レポート

JR備中高梁駅直結の高梁市図書館。高梁市の文化拠点として賑わうこの場所に、県内各地で活躍する地域おこし協力隊・元隊員を迎え、現場の事情にも詳しい藤井さんの進行でトークを行いました。

ハブさんは「郷土芸能の再生」を題材に、高梁市有漢町で途絶えていた「長蔵(ちょうそう)音頭」の伝承について紹介。資料や伝聞、自身の経験を生かして音源を再生、CDの制作や盆踊りでの復活も叶いました。実際にハブさんが披露する音頭に合わせて参加者が手拍子をする場面も。「土地に眠る魅力を掘り起こし、地域を巻き込み楽しむことでムーブメントに繋がる。」と活動を振り返りました。相澤さんのテーマは「100年前の仕事にあこがれて」。子どもの頃から麦わら帽子の一種「カンカン帽」に興味を持ち、笠岡市に移住後は岡山県西南部で生産が盛んだった「麦稈真田(ばっかんさなだ)」を残すための活動に携わります。伝承者への聞き書きのコツや、ワークショップ、麦ふみ等の作業についても写真を交えて紹介。よそ者フィルター(視点)を利用する、記録ではなく記憶に残す等、印象的な言葉に多くの参加者が関心を寄せていました。

続いて、豊島さんは備前市日生町で運営する「英語サロン」について紹介。豊富な海外経験や子育てを通じて国際教育への意識を高め、英語を通じて外国人と地域の人が気軽に交流できる場所づくりを目指しています。サロンではお茶や着付け講座、家庭料理など、地域で実践しやすい身近なテーマで交流を育み、地域活動の魅力につなげているのがポイントです。サービスの更なる充実や運営面など、今後の課題も分かりやすく話していただきました。

西原さんは、岡山・瀬戸内地方の独特な番茶文化に触れつつ、お茶をテーマに高梁市の地域おこし協力隊として取り組んでいる活動内容を発表。瀬戸内の茶業を担う若手茶業者による「瀬戸内茶業青年団」の設立、商品開発、番茶・和紅茶専門店「茶屋 まのび堂」の経営など、いろんな形でお茶の魅力を伝え、人と地域の輪をつなげています。自ら開発した「おひさま番茶」も振る舞ってもらいました。「漆ともの書き」の2つを軸に真庭市で活動する甲田さんは、伝統工芸の「郷原漆器」の背景に着目。漆というものを深掘りするため、漆を食べる、塗るといった体験型イベントを実施。斬新なアイデアが反響を呼びました。もの書きとしては、地域の歴史あるものの隠された背景を知ってまとめる活動も目標に。「文化の解像度を上げて細部を感じてもらおう」、「文化は感情と結びつけると面白くなる」など、独自の視点が参加者の興味を惹きつけました。

最後は「岡山で文化芸術を育むために必要なものは？」というテーマでディスカッション。地域の魅力づくり、人との関わり方など、経験や考え方を共有し、文化芸術、地域活動に対する認識を深めました。



駅直結の複合施設の中にある高梁市図書館が会場



県内の地域おこし協力隊・関係者がそろいました



回答シートを使いながらのディスカッション



長蔵音頭(ちょうそうおんど)

岡山県高梁市有漢町に伝わる音頭形式の民謡。「四つ拍子」という有漢町で最古の音頭を元に昭和 50年代に作られた。天明の大飢饉で苦しむ旧川関村を命がけて救った綱島夫妻の功績を題材としている。音頭取りが亡くなったことで後継者がおらず、人口減少、娯楽の発展などにより約 20年前に消滅。2017年に地域おこし協力隊に赴任したハブヒロシさんが、地域の人と協力しながら長蔵音頭の再生に取り組み、2019年の 8月に完全復活。「ハブヒロシ with有漢ちゃんぶるオーケストラ」として同月に CDを発売



麦稈真田(ばっかんさなだ)

麦わらを平たくして組紐状に編んだもので、主に麦わら帽子の材料として用いられる。麦わら帽子はイタリア・トスカーナが発祥といわれ、日本では明治以降に普及。日本の真田は重要輸出品として生産を奨励され、特に岡山県南西地域は全国トップクラスの生産地だった。世界恐慌や第二次世界大戦の影響で輸出が停止し、外国製品が増えたことや化繊素材の流行で衰退した。裸麦で作る日本の真田は良質で、軽く柔らかいのが特徴。組み方の種類も数多い。生産技術や製法など、当時の麦稈真田について知る人が少なくなっている。



イングリッシュクラブ

備前市地域おこし協力隊の豊島りえさんが運営する備前市日生町のゲストハウス。元々民宿だった空き家をリノベーションしてオープンした。ホームステイの無料受け入れサービスを実施したり、地域の人と訪れた外国人が気軽に交流を深められる「英会話サロン」を開催したりと、地元の国際交流の拠点となっている。お茶や着付け体験などのイベントも開催。教える、受け取るの一方通行ではない多方向のコミュニケーションを図りながら、世界各国の文化にふれるきっかけを地域に生みだしている。



茶やまのび堂

高梁市地域おこし協力隊の西原千織さんが店主を務める番茶・和紅茶専門店。高梁市川上町の空き店舗を活用して 2019年 3月にオープン。オリジナルの「おひさま番茶」や、「高梁三年番茶」といった地元のお茶を中心に、さまざまな種類のお茶メニューやフードメニューを提供している。店名の「まのび堂」には「間の美」「間延び」という意味があり、お茶を使って人の間をつなぎ、ゆとりある時間を生み出したいとの想いが込められている。



郷原漆器

真庭市の郷原という集落で作られていた漆器で、岡山県の重要無形文化財にも指定される郷土の伝統工芸品。元禄時代に誕生してから約 600年以上もの歴史があるとされており、普段使いの漆器として親しまれ続けてきた。ヤマグリを生木のまま輪切りにして木地挽きする独特の製法や、地元の良質な漆を塗り上げた艶のある美しい風合いが特徴。戦後を境に生産が途絶えたものの、有志の手によって平成に入り復活。昔の技術を守る一方、漆の栽培など素材の継承も課題となっている。画像提供：岡山県

参加者コメント

- ・同じ協力隊でも多様な活動をされている方の話を聞いた。(30代/女性/会社員)
- ・興味を持ちはじめた岡山のことを同じ県外から来た方々の視点で直接話を聞いてよかった。(30代/女性/飲食業)
- ・親が地元で身近な地域でしたが、見つけることができなかったものを発見させていただいてありがたかったです。(50代/男性/自営業)

講師コメント

岡山県は協力隊が多く、2016年からそれらをつなぐネットワーク組織もあります。過疎地は見方を変えれば最先端。卒業生も含めると 350人くらいの方が活動してきているので、これらを内外に広めるような活動もしていけたらと思います。(藤井)



社会でのあらゆる垣根を越えて参加できる公募展として9周年を迎える「ポコラート」、やりたいことを無理せずできる快適な生活介護事業所「ぬかつくるとこ」、既存の価値観や芸術観にとらわれない自由な働きや表現活動、ユニークな事業で注目を浴びる「NPO法人 SWING」など、全国でこれまでに無い生き生きとした活動が生まれています。今回は東京、京都、岡山の各現場の方々に、日々の活動や現代社会の中で私たちの暮らしや表現はどういう状況にあるのかを語っていただきつつ、人にとって表現は何なのかを一緒に考えます。

嘉納(かのう) 礼奈…兵庫県生まれ、芸術人類学研究者。アーツ千代田 3331 の社会包摂型芸術支援事業チーフとして、「ポコラート全国公募」コーディネーターを務める。アウトサイダー・アートの研究、企画などに携わる。『美術手帳』『ユリイカ』など多数寄稿。

木ノ戸昌幸…愛媛県生まれ。引きこもり支援 NPOや福祉施設勤務などの活動を経て、2006年にNPO法人 SWINGを設立。あらゆる枠を超えた多様な社会活動や創造的実践をプロデュースしている。同法人のフリーペーパー「Swinging」編集長も務める。

中野厚志…山口県生まれ。福祉関係の大学を卒業後、岡山県内の障がい者支援施設に15年間勤務。早島町の古民家を利用し、生活支援事業所「ぬかつくるとこ」を2013年に設立。日常に垣間見える個人の魅力を、無理なく社会に広げる多彩な活動を展開中。



レポート

今回の会場は、明治時代の町屋建築をリノベーションした施設「いかしの舎」。県内外から訪れた約30名の参加者が、和の風情あふれる空間で講師陣のトークに耳を傾けました。

まずは「ぬかつくるとこ」の中野さんが、マイペースな「ぬか」の活動の記録を紹介しました。アトリエに通う約20~30名の「ぬかびと」さんは、好きなものや出来ることも人それぞれ。例えば、刺繍の好きなチカさんによる刺繍のワークショップや、新聞ちぎりのプロ・コイケさんと一緒に新聞をちぎる「コイケのオイケ」、本好きの戸田さんが紡いだ味のある言葉をおみくじにしたワークショップ「とだのみ」など、実に個性豊か。ネーミングや企画も秀逸なものばかりで、参加者も興味深く聞き入っていました。日々の営みの中にある些細な事にスポットを当て、スタッフが自由に、時には面白がりながらアイデアを形に。中野さんは「日常そのものが『ぬか』の表現。いろいろな人がイキイキと活動し、日々ドラマと感動が生まれています」と語りました。

ランチの後は、「SWING」の木ノ戸さんが、ユニークな表現活動を紹介。木ノ戸さんは、市民が自発的に社会活動を行うNPO法人の取り組み方にこだわり、誰もが自分らしくいられる創作環境や働き方を提案しています。紙の箱を折るという地味な作業に価値を見出すべく、名作映画のオマージュとして映像化した「shiki OLIOLO」、青レンジャーとなって清掃活動を行う「ゴミコロリ」など、どれも面白可笑しく型破りな発想。真面目にふざける「ギリギリアウト」の表現を狙いつつ、障害やアートに対する既存概念の殻を破り、楽しく継続できる活動を実践しています。木ノ戸さんのトークも笑いの小ネタが満載。会場は終始笑い声に包まれていました。

嘉納さんは、「ポコラート」の活動で印象的だった作家のエピソードを交え、美術業界側からの視点でお話いただきました。作家の内面が反映される作品や独自の創作法や偶然性、作家・モノ・鑑賞者のどこに視点を置かかなど、型にはまらないアートを分類化。置物、ご神体、玩具など多様な役割を持つ「人形」を例に挙げて、時代や人との関わりによって意味や捉え方の変わるモノの複雑性、表現の多様性を解説していただきました。後半は「アールブリュット」「アウトサイダーアート」といった既存のカテゴリライズにとらわれずに、新たなアート活動の名前を考えるワークショップも行いました。

最後は3名でトークディスカッション。表現という言葉の捉え方や活動についての想い、今回のテーマで感じたことなどを話し合いました。



町家をリノベーションしたいかしの舎の2階



ランチはぬかつくるとこの「マンちゃんカレー」



アート活動の名前を考えるワークショップ

ヒト・コト・場所



いかしの舎(いかしのや)

畳表・経糸の間屋として残る代表的町家「寺山家」の建物をリノベーションした施設。かつて「い草」の生産で栄えた早島町の旧街道沿いにあり、貴重な明治末期の建築を今に生かしている。施設は無料で自由に見学でき、長屋門と庭を挟んだ母屋、茶室、蔵の各部屋は貸し切りが可能(有料)。結婚式や結納、法事、宴会をはじめ、展示やセミナーなど幅広い目的で利用でき、まちの文化交流拠点として親しまれている。蔵を改装した喫茶室も併設され、美しい和風庭園を眺めながらゆったりお茶を楽しめる。今回の実験室では、母屋2階の研修室を利用 <http://www.town.hayashima.lg.jp/ikashinoya/>



ぬかつくるとこ

早島町にある築100年の古民家を利用した生活介護事業所。2013年の設立以来、生活ケアを軸として表現活動をサポートしている。マイペースにものづくりができる「アトリエぬかごっこ」などの取り組みを通し、一人ひとりが無理なく自分らしい生活を送れる場所づくりを行う。正面から捉えるとひるんでしまうことも、少し角度を変えてみることで誰も気づけなかった価値や魅力を生み出せる。それを「ぬか漬」のように時間をかけてゆっくり「発酵」させながら社会へ広げていく活動を目指している。おいしいランチを提供し誰もが利用できるカフェも営業中 <http://nuca.jp/>

ワークショップ

ランチ

- ・会場の裏手にある「ぬかつくるとこ」のアトリエに移動してランチタイム
- ・「ぬかつくるとこ」に通うマンチャン(万殿雄也さん)店長が営む「マンチャンカレー」。日頃から体を鍛えているマッスルボディのマンチャンが、にんにくやチーズ、プロテインパウダーなど好みのトッピングを追加してくれる。
- ・参加者は思い思いの席に座り、古民家の風情ある空間の中でランチを堪能。相席同士の会話が弾む、和やかな時間となった。

アート活動の名前を考える

- ・多様なアート活動をカテゴライズする試みとして「〇〇アート」というネーミングを考える。
- ・「アールブリュット」「アウトサイダーアート」といった既存のカテゴライズにとられない。
- ・見る人によって印象が違ってくるアート「天井の染みアート」や、繰り返しのネーミング「アートアート」など、思いついた名前を発表し合った。

参加者コメント

- ・障害者アートという言葉には違和感を持っていたが、人間と表現という言葉や捉え方がよかった。セーフゾーンを広げるように日常を意識していきたい。(40代/女性/図書館職員)
- ・生活の支援の中で日々忙殺されてしまって利用者のもつ力を発見できない自分であることを考えさせられた。(20代/男性/福祉職)
- ・気になっていた活動を知ることができた。ランチを通してぬかの空間に身を置くことができたのもよかった。(20代/女性/美術館職員)

講師コメント

やっているのは「表現」の前に、日々のこと。それを「面白い!」と感じて外に見せる時に、その人らしさを崩さず視点を変える、育てていくようなことをしていけたらいいと思う。(中野)

「アート」「作品」よりも「表現」という言葉の方が射程が広がり、敷居がさがる。人とコミュニケーションの回路をつくる際に有効だと考えています。(木戸)

必ずしも「アート」に寄せて活動をする必要はないが、活動の環境を整えたり、演出する力が重要だと感じました。(嘉納)



ファシリテーション・グラフィック で振り返る、これまでの実験室

日時:2020年3月4日(水)18:00~20:30

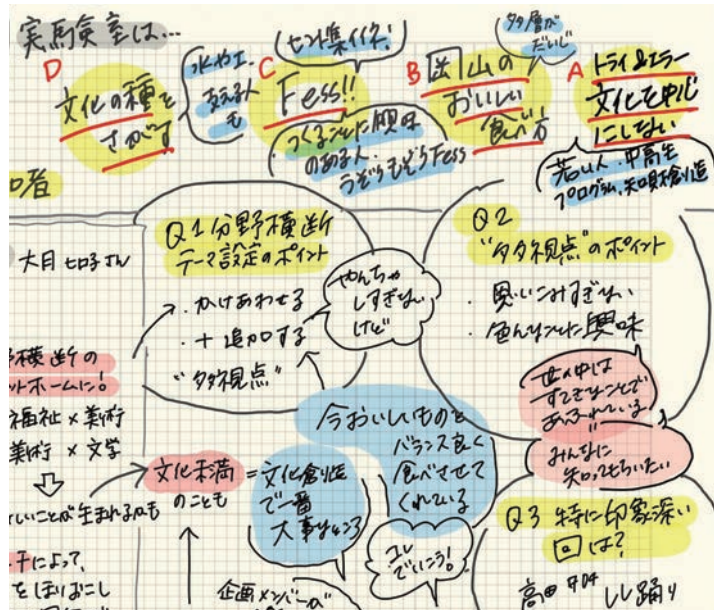
開催地:岡山県天神山文化プラザ(岡山市北区天神町8-54)

講師:藤 浩志(美術家、秋田公立美術大学大学院教授)、名畑 恵(NPO法人まちの縁側
育くみ隊 代表理事、錦二丁目エリアマネジメント株式会社 代表取締役)

2017年10月から実施してきた「文化芸術交流実験室」。これまで計25回の実験室にご登場いただいた方は、多岐にわたる分野から64人にのぼります。26回目では、地域との関係結びながら様々なプロジェクトを展開されている藤浩志さんとともに、これまでの実験室を振り返りながら、25回を行ったうえでの気づきや課題などを洗い出します。また、それらをファシリテーション・グラフィックで可視化していきます。様々な意見をビジュアル化しながら、ともに共有することで何が見えてくるのでしょうか。

藤 浩志…京都市立芸術大学大学院美術研究科修了後、パプアニューギニア国立芸術学校講師、都市計画事務所勤務を経て地域をフィールドにジャンルにとらわれないプロジェクトを試みる。「ヤセ犬の散歩」「お米のカエル物語」「Vinyl Plastics Connection」「Kaekko」「藤島八十郎をつくる」「Polyplanet Company」「Jurassic Plastic」等

名畑 恵…1982年愛知県春日井市生まれ。椋山女学園大学卒、愛知産業大学大学院修士課程修了、(故)延藤安弘氏に師事。全国各地のまち育て活動や公共事業等にファシリテーターとして携わる。また、名古屋市錦二丁目・長者町地区に学生の頃から携わり、あいちトリエンナーレのまちなか展開事業や「錦二丁目まちの会」運営を担当している。2018年3月には地縁組織と共に錦二丁目エリアマネジメント株式会社を立ち上げる。



レポート

3年にわたる実験室の振り返りとなる今回。新型コロナウイルスが全国的な拡大の兆しを見せており、会場にはアルコール消毒液が設置されるなど、いつもと少し違う雰囲気の中で始まりました。最初に、岡山県文化連盟の高田から振り返りの手法自体を実験室的にやってみようという趣旨を説明しました。

続いて講師の自己紹介。藤さんは、幼少期から文化活動に触れる機会が多かったそう。30歳を過ぎてからは美術家としての活動の傍、市民合唱団にも所属されていました。プラスチックゴミを持ち寄って市民と一緒に作品を作るなど、長らく「文化未滿」の、文化を作っていくようなプロジェクトに携わり、実験室に共通する活動をしてきた経験が語られました。名畑さんは、あいちトリエンナーレの会場にもなった名古屋市の長者町地区などでまちづくりの支援活動を行ってきました。住民、企業、行政など様々な人と一緒に構想し活動する中で、議論を見える化するファシリテーションが必要だったといいます。話し合いの到達点を確認しながら記述していくと、ゴールに着実に近づくのだとか。今回も語り合われる事を見える化しつつ、ファシリテーションのコツを教えてくださいました。

振り返りの前半は、企画・運営チームより橋本が3年間の実績を報告データを用いながら共有。コーディネーターの大月は、そのねらいと手応えについて話しました。文化連盟の活動には、様々な分野の人々が参画し、蓄積が沢山ある一方で、分野をまたいだ交流の機会がないように見えたそうです。そこで横断的なプラットフォームを作り、文化・芸術だけでなく、福祉、教育、建築など入口を沢山用意する事で、互いのコラボレーションを狙いました。一方、藤さんの「文化未滿」という言葉にもあるように、今はまだ関わりを持っていない人をどう巻き込むかが今後の課題だと述べました。一方、高田には、新しい事を生み出さないと、文化連盟として成長ができないという課題意識がありました。これまでに培ったネットワークを生かして新しいことができるのではないかと。これまで関わりを持ってなかった分野の人とも接点を持つことを狙うなど、地域アーツカウンシルを始めた経緯が共有されました。

参加者の手元には「議論の種シート」が配られ、話を聞きながらきになるポイントを書いていきます。「分野横断的というが、どんな分野を選んだのか」「ボツとそうでないものとの線引きを知りたい」など、様々な質問が出ました。振り返りの後半は、グループに分かれて参加者も議論しました。各グループの発表では、「実験室は、文化の種を探すこと」「実験室はフェスだ!」「岡山の美味しい食べ方」「文化を中心にしない」などの言葉が飛び出します。それらに対して藤さんがコメントし、名畑さんがわかりやすく見える化(促す・聞く・まとめる・伝える)。とても内容の濃い議論となりました。



「文化未滿」にも注目する藤さん



「議論の種シート」を手にする名畑さん



「実験室とは○○」をディスカッション

ワークショップ

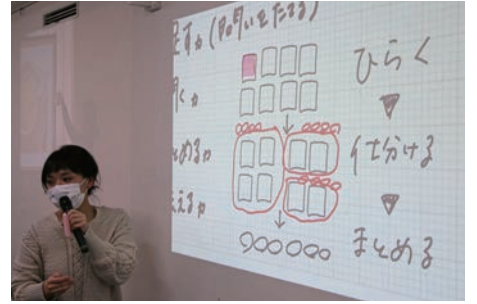
アイスブレイク/ファシリテーション体験

- ・チーム人数調整
- ・2人1組になって、ペアでお互いに似顔絵を描く。絵が苦手な人は、○△×などの図形を組み合わせる。
- ・1分でインタビュー。最低限名前は聞き出し、それ以外は何を聞くのも自由で、ファシリテーションに必要な「促す力、聴く力、まとめる力、伝える力」の4つの力を体験
- ・グループ内で、1人30秒で紹介



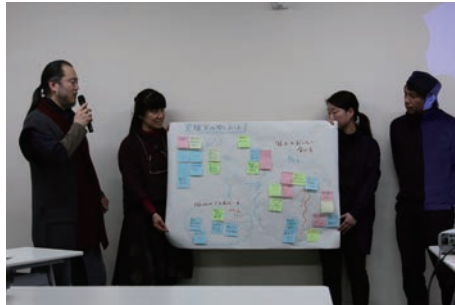
「実験室とは○○」ディスカッション

- ・配付されたこれまでの実験室のレポートを読んで、「議論の種シート」の付箋紙に記入
- ・書記と進行役を決め、「実験室を掘り下げる」をテーマに、模造紙に上記で記入した付箋紙を貼り付けながらアイデアを出し合う。
- ・話し合いのポイントは、ひとつの意見が出たら、それに似た意見が書かれた付箋紙を近くに貼って掘り下げる。たくさんアイデアを出して、次にキーワード毎に仕分け、最後にまとめる。
- ・最後に「実験室とは○○」とタイトルをつける。
- ・各グループ3分で発表。次に発表するグループがタイムキーパー



議論の種シート

A4の用紙に4種類の付箋紙と記入例が書かれたもの。付箋紙は、①黄色：質問したいこと、②赤色：印象に残ったこと、③青色：実験室の意義はコレ!、④緑色：アイデア(課題解決等)に分かれている。



軽食

・橋本パン教室(東岡山)のウインナーロール、花のパン(桜葉の塩漬入り)。スープは、ブロッコリーのポタージュ。生クリームのポーションをお好みで。デザートにシャインマスカット



参加者コメント

- ・自由に意見を言える雰囲気があった。(40代/男性/飲食業)
- ・記述方法とファシリテーションが参考になりました。(40代/男性/アーティスト)
- ・実験室の意義とは。自分でも自然と言葉が出てきて嬉しくなりました。(20代/女性/美術館職員)
- ・藤さんの「将来の知財をつくる」という言葉が響きました。(40代/女性/文化団体職員)

講師コメント

ジャンルを超えて、面白いことをしたい・作りたい、と思う人が集まると、濃度が高い場になり、何かが起こる可能性があると思います。(藤)

藤さんから「水」や「土」支える人も大事という言葉が出ましたが、今日ここに集まった方々がその役割を担っていただけるのではないかと思います。(名畑)

全26回の振り返り

実施データ

2017～2019年度に渡って行われた事業の回数、講師・協力者数(県内外)、参加者数を以下の通り集計した。

	時期	回数	講師・協力者(人)	県外の講師(人)	参加者[平均値](人)
2017年度	2017年11月～2018年3月	5(第1～5回)	6	8	212[42]
2018年度	2018年4月～2019年12月	12(第6～17回)	15	14	434[36]
2019年度	2019年6月～2020年3月	9(第18～26回)	15	9	246[27]
計		26	36	31	892[34]

実施テーマ(例)

主に「分野を横断する」「特定の分野を深める」「プロジェクトマネジメントを学ぶ」という観点で実施した。

分野を横断する

	テーマ	アプローチ
第2回	古道具類を生かす、回想法の魅力に迫る	民俗資料×回想法
第3回	文化と教育と福祉の刺激的な関係	演劇×教育・福祉
第9回	音楽と絵と映像と	音楽×絵×映像
第11回	文化を伝えるグラフィックデザイン	編集・デザイン×まち歩き
第16回	アーティストが作った料理 作家が作った料理	美術・文学×食
第18回	モード写真の世界	写真×メイク×ダンス
第22回	ことばから紐解く歌の世界	文学×音楽
第24回	地域おこし協力隊が育む岡山の文化芸術！	地域おこし×伝統芸能・工芸・食・国際交流
第25回	人にとって表現とは何なのか	美術(表現)×福祉

特定の分野を深める(例)

	テーマ	アプローチ
第4回	伝統芸能から見る未来	伝統芸能(獅子踊り、備中神楽等)
第6回	画材から見る日本絵画	日本画(画材と技法)
第7回	糸紡ぎから広がる世界	紡績、繊維産業
第10回	建築探偵団其の壱『会館』	モダニズム建築
第12回	海から見る岡山	瀬戸内海、水運、船
第13回	岡山の中の異文化コミュニティ	多文化共生
第14回	建築探偵団其の壱『団地』	公営住宅
第17回	芸術文化の今 ソウルと岡山	ソウル
第19回	映画制作の現場	映画制作、興行
第20回	建築探偵団其の参『土との対話』	パーマカルチャー

プロジェクトマネジメントを学ぶ

	テーマ	アプローチ
第1回	見えない岡山を見る	まちを捉える
第5回	食でつながる地域	企画・マーケティング
第15回	価値を紡ぐプロジェクトアーカイブ	記録・編集・アーカイブ
第21回	お金の仕組みから考える文化芸術の支援	ファンドレイジング
第26回	ファシリテーション・グラフィックで振り返る、これまでの実験室	ファシリテーション・グラフィック

地域・会場

岡山県下の交通アクセスの良い場所を中心にしながらもそれにはこだわらず、回のテーマに応じては多様な地域で開催した。

地域	回数
岡山市	11
倉敷市	5
総社市	2
玉野市	1
瀬戸内市	1
津山市	1
真庭市	1
高梁市	1
奈義町	1
久米南町	1
早島町	1

カフェ・ラウンジ等

- ・Jテラスカフェ
- ・きよね夢てらす
- ・奉還町4丁目ラウンジカド
- ・いかしの舎
- ・住吉町の家分福
- ・東山ビル

旧銀行・小学校等

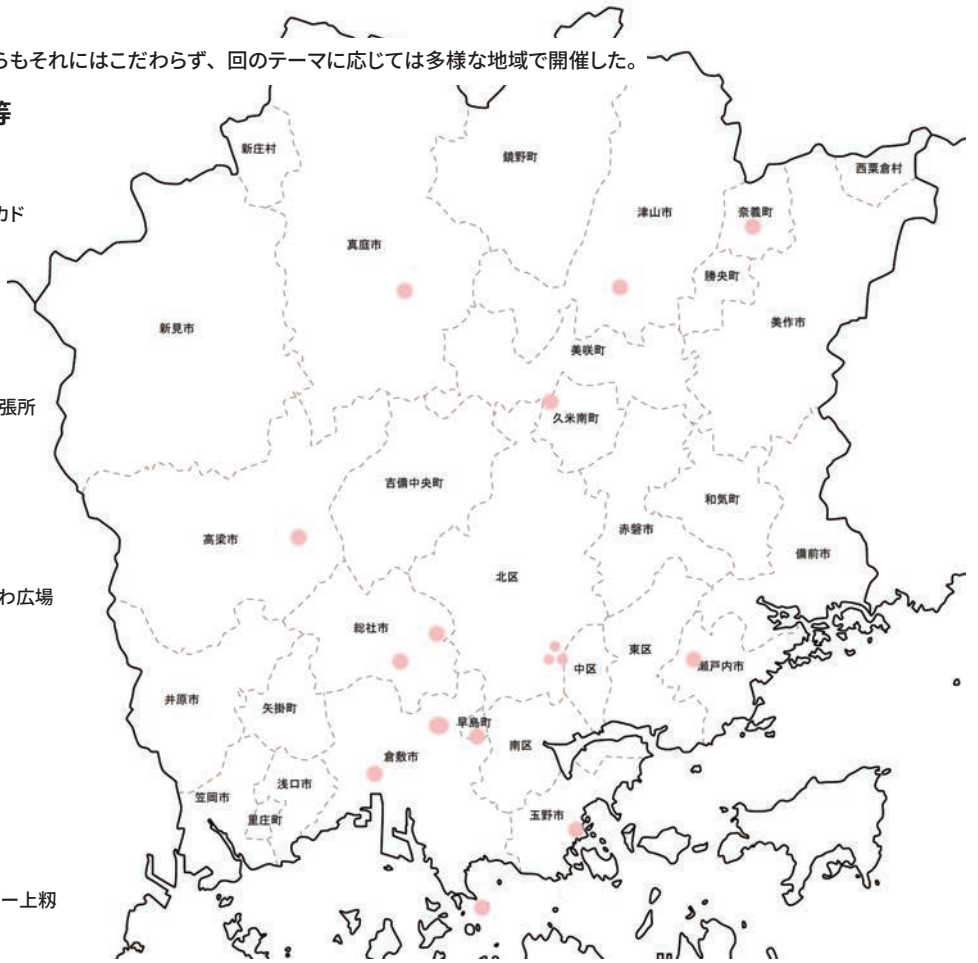
- ・旧中国銀行倉敷本町出張所
- ・旧遷喬尋常小学校
- ・松島分校美術館

大学・図書館等

- ・岡山県立大学
- ・瀬戸内市民図書館もみわ広場
- ・高梁市図書館

その他

- ・岡山後楽園 鶴鳴館
- ・衆楽園 迎賓館
- ・クレド岡山
- ・IDEA R LAB
- ・TAMAYA TAMASHIMA
- ・老松団地
- ・パーマカルチャーセンター上柳



文化施設

- ・岡山県天神山文化プラザ
- ・岡山県立美術館
- ・岡山市民会館
- ・倉敷市立美術館
- ・吉備路文学館
- ・奈義町伝統文化等研修施設

ディスカッションの記録

第26回で企画メンバー、藤浩志(講師)、参加者によって行われた振り返りをまとめたグラフィックを名畑恵(講師)が制作した。

26
文化芸術交流実験室
TASK SESSION & WORKSHOP

「ファシリテーション・グラフィックで振り返る、これまでの実験室」

3/4(WED) 18:00-20:30 会場：岡山県天神山文化プラザ

グループの成果

実馬実室は...

文化の種を
すかす

水水工
強社
も

Fess!!

送山の
おいし
食の方

79層が
Fess!!

A トリコ
文化をPC
にしな

若く・中高生
700名・笑顔創造

企画メンバー 藤先生 参加者

3年25回の実験室の振り返り
橋本さん
(テーマ) 分野横断!
深めろ!
マネジストも学ぶ

実験室前...
ネットワー 高田佳奈さん
人脉・資源を
文化連携を
蓄積して次の
地域づくり

ねらい 大目七子さん

① 分野横断の
プラットフォーム!
ex. 福祉×美術
美術×文学
新しいこどもを
つくる

② リサーチによる?
岡山をほらおし
活動や団体か
つたがっていつか

文化本満 = 文化倉庫
のこも
一番
大事なの?

企画メンバー
楽んがらう!!
イ!!

Q1 分野横断
テーマ設定のポイント
かけあわせ
+ 追加する
"多視点"

Q2 "多視点"のポイント
奥いおぼや
魚んやめ興味
世の中は
おぼやめ
あきらめ

Q3 特に印象深い
回は?
高田さん
下月 #20
11:00-12:00

Q4 ボールテーマあり?

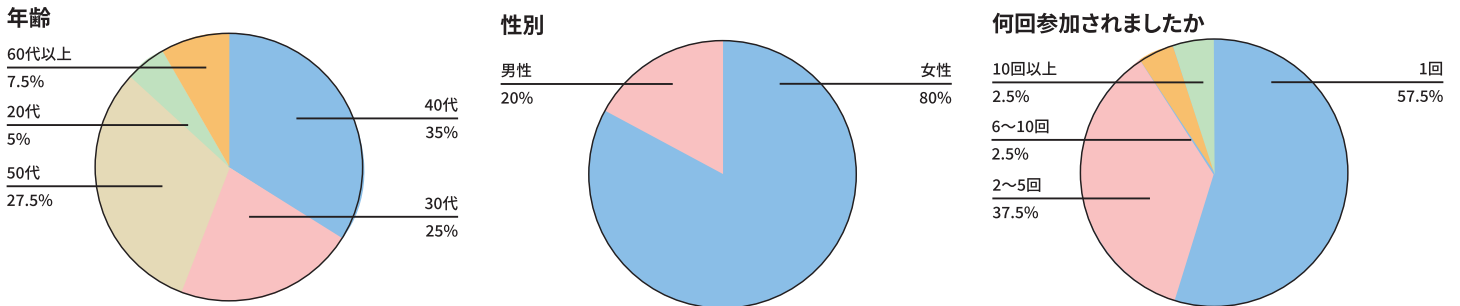
色

名畑恵

参加者の傾向や反応をアンケート

文化芸術交流実験室の参加者には毎回アンケートを実施していましたが、第1回～第26回(平成29年度～令和元年度)の終了後にあらためて全回の参加者を対象にアンケートを実施。傾向や反応、参加後の動向を探りました。

実施方法: メール送信により、ウェブフォームから回答を依頼
 回答期間: 2020年3月6日～23日
 回答数: 40件(回答率: 38%)



1. 参加をきっかけに、興味を持った分野に関する活動

- ・関係する場所や活動について調べるようになった。(7件)
- ・関係する場所に行ってみた。(2件)
- ・関係者に会って話をした。(2件)
- ・関連するイベント、ワークショップなどに参加した。(5件)
- ・関連する図書を読んだり、CDを購入した。(5件)
- ・知人に薦めるようになった。
- ・作品(映画)を制作した。

2. イベントの開催時期、場所などについて

- ・魅力的な場所を訪れたい。
- ・映画館などでも開催して欲しい。
- ・普通では行けないようなところに行けたのが良い。
- ・毎回様々な場所で開催され、楽しんでいる。(3件)
- ・公共交通機関で行きやすい岡山市以外の市町村。
- ・移動距離がかかると参加しづらいところもある。
- ・場所によっては、季節も意識して利用するとより良い。
- ・場所によっては、参加者数に対して狭い、と思える時がある。
- ・年齢的に、座る形よりも椅子のほうが有難い。
- ・時期は年間通じてが行きやすい。
- ・暑すぎず寒すぎずの時期がありがたい。
- ・平日昼の開催も検討して欲しい。
- ・平日夜間の開催は参加しやすかった。

3. おかやま文化芸術アソシエイツに期待すること

- ・参加できない人のために、講座等の資料はある程度オープンにもらえるといい。
- ・講演等のネット配信、参加者のネットワークづくりなど。
- ・体験型や参加型の催しは続けて欲しい。内容により複数回に渡るのも深まって面白い。
- ・新しい分野や、普段かけあわず事のない分野との組み合わせの挑戦的な企画。(2件)
- ・小さな世界同士を繋げたり、すくいあげて多数の人に広げるような企画。(2件)
- ・多種多様な分野におよぶ企画。
- ・もっと関係者の生の声が聞けるイベントなど。
- ・もっと踏み込んだ実践型の企画など。(2件)
- ・文化芸術が、もっと一般の人達の生活の中にあるものになる為に色々な事を知りたい。
- ・仲間意識に縛られず、門戸も心も広く多様な人と予算を分かち合うこと。
- ・芸術人類学、芸術はなぜあるのかという根本的な問いをみんなで考えてみたい。
- ・伝統芸能や文化財などが次世代へ継承される手助けになる取組。
- ・SNS、自給自足、集める、空き家を利用した町おこし・芸術活動、障害者福祉、アール・ブリュットが生まれる現場、それを支える人々などをテーマとした企画。

所感

参加者の傾向については、各回20～60代まで幅広い世代が見受けられましたが、回答にもその結果が現れていました。項目2の中で参加のしやすさが求められる回答が様々なかたちであり、多様な形態で実施希望があることが分かります。そのような中で、複数(2～10)回参加された方が半数近くを占めており、複数回に渡って関心を寄せていただいた傾向があります。

項目1では、興味を持った分野や人などについて図書やインターネットで調べてみるにとどまらず、イベントに参加したり、他人に薦めたりするなど様々なレベルで具体的な活動につながっていることがわかりました。

項目2では、特徴的な開催日時や場所の設定について、それ自体が面白いという意見がある一方で、参加のしやすさも求められているなど意見が二分していることがわかりました。

項目3では、実験室に限らず多様なご意見をいただきました。「おかやま文化芸術アソシエイツ」の認知を広めること自体を試みながら、活動全般の充実を図ることが求められています。

岡山県内の気になる「ヒト・コト・場所」をアンケート

文化芸術交流実験室の参加者から寄せられた、岡山県内で気になっているヒト・コト・場所をリスト化しました。

※ 実験室で紹介したもの、抽象的なもの、詳細不明なものは省略しています。

(順不同)

あさのあつこさん	美作町生まれの児童文学作家。小説『バッテリー』はのべ1000万部を超えるベストセラー
erbenmu (アルバンモー)	瀬戸内市邑久町にあるビーガン&オーガニック料理のカフェ
IDEA R LAB	倉敷市玉島にあるクリエイティブリユースのプラットフォーム
今在家	岡山県岡山市中区今在家
妹尾真由子さん	映画・テレビ制作のためのロケ誘致などを行う岡山県フィルムコミッション協議会職員
蔭涼寺	岡山市北区中央町にある臨済宗妙心寺派の寺院。写経や座禅を体験できるワークショップや音楽イベントを開催している。
EVERY DENIM	兄・山脇耀平、弟・舜介お2人が、2015年に立ち上げたデニムブランド。玉野市で「DENIM HOSTEL float」も運営
オーガニック野菜	「おかやまオーガニック」「ミモレ農園」など岡山 オーガニック野菜で検索すると数件の農園がヒットする。
岡山芸術交流	岡山市で2016年から3年に1度開催されている国際現代美術展
岡山映画祭	1995年から2年に1回開催されている映画祭
CAFÉ KITSUNÉ ROASTERY	岡山市出石町に2019年秋オープン。大正時代の古民家をリノベーションしたコーヒーロースタリー
倉敷・井原などの繊維産業	岡山県下において、倉敷市児島地区および井原市周辺が繊維産業の2大産地となっている。
総社	古代吉備王国とされる総社地区などに作山古墳、造山古墳、こうもり塚古墳など多くの史跡がある。
さざなみハウス	瀬戸内市邑久町にある、国立ハンセン病療養所「長島愛生園」に常設されているカフェ
下津井、瀬戸大橋の景観と歴史	かつて西回り航路の重要寄港地として栄えた下津井地区。1988年に開通した瀬戸大橋を間近に眺めることができる。
スロウな本屋	「ゆっくりを愉しむ」をコンセプトに店主が厳選した絵本と暮らしの本が揃う、岡山駅近くの新书書店
瀬戸内かわいい部	瀬戸内地域の魅力的なモノ・コトを、「かわいい」という観点から探し、伝え、育てることを目的としたコミュニティ
瀬戸内国際芸術祭	瀬戸内海の島々を舞台に2010年から3年に1度開催されている現代美術の国際芸術祭
田野智子さん	NPO法人ハートアートの代表。障害のある人とアーティストをつなぐなど、地域社会における芸術文化プロジェクトを実践
中世夢が原	井原市美星町にある中世の町並みを再現したテーマパーク
TUNAGU LIFE	「植物と暮らす」をコンセプトに、観葉植物、多肉植物を取り扱う岡山市の植物屋
PORT ART&DESIGN TSUYAMA	津山市指定重要文化財である旧妹尾銀行林田支店を活用したアートギャラリー
路面電車の延長	岡山駅東口広場の整備にあわせた路面電車の駅付近への乗入れ、路線の延長などが計画されている。
百間川	岡山市南部にある人工河川。江戸時代初期、岡山城下の洪水防止のためつくられたもので、旭川放水路とも呼ばれる。
ホハル	倉敷市真備町に2018年4月に開所した、放課後等デイサービス。クラウドファンディングを活用して、豪雨災害から復興した。
玉島マチヲさん	倉敷市玉島で生まれ育った架空の人物。美術作家・川埜龍三によるプロジェクト
YADOKARI	音楽家・政治活動家・社会活動家。吉備中央町にライフスタイルショップ三宅商店も構える。

研究会・文化プログラム認証受付等

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの周知と参画の促進及び beyond2020プログラムの認証受付、文化団体等の活動に対する助言や支援、文化活動に係る研究会・勉強会・講演会等を実施しました。

「みんなの活動」官民合同資金調達 ミニセミナー&相談会

[備前地域]

日時 | 2019年9月19日(木)

開催地 | ゆうあいセンター(岡山県ボランティア・NPO活動支援センター)

[備中地域]

日時 | 2019年10月15日(火)

開催地 | 岡山県備中県民局

県内文化芸術関係公益法人情報交換会 アートマネジメント研修 共催:公益財団法人福武教育文化振興財団

日時 | 2019年7月23日(火)14:00~17:00

開催地 | 岡山市立オリエント美術館

講演 | 公民連携

講師 | 中村政人(東京藝術大学絵画科教授、アーツ千代田3331創設者)

日時 | 2020年3月5日(木)14:00~17:00

開催地 | 岡山県天神山文化プラザ

講演 | 文化創造のための表現未満と地域素材以前

講師 | 藤浩志(美術家、秋田公立美術大学大学院教授)

※新型コロナウイルス感染症対策のため、規模を縮小して実施

公益財団法人福武教育文化振興財団 2019年度 教育文化活動助成贈呈式・成果報告会・交流会での相談ブース出展

日時 | 2019年11月9日(土)

開催地 | 岡山プラザホテル 延養の間

文化プログラム(beyond2020)の認証受付

beyond2020プログラム 認証状況

区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
全体(※1)	157	328	266	-
うちアソシエイツ受付分(2017.8.31~)	78	321	257	-
うち県文祭事業	79	153	65	-
うちその他文化連盟申請事業	28	37	26	-

※1 2020.3.31 内閣官房まとめ+アソシエイツ受付未反映分

東京2020参画プログラム(応援文化オリンピアド) 認証状況

区分	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度
全体(※2)	69	64	97	-
うち県事業	2	4	46	-
うち県文祭事業	51	40	40	-
うちその他文化連盟申請事業	16	20	11	-

※2 2020.3.31「Culture NIPPON」HP掲載情報+文化連盟申請実績(2020.3.31まで)

監修 大月ヒロ子
編集 高田佳奈、橋本誠
デザイン・制作 安藤次朗 [LOVE AND PEACE]、一般社団法人ノマドプロダクション
発行 公益社団法人岡山県文化連盟 〒700-0814 岡山市北区天神町8-54 岡山県天神山文化プラザ内
TEL 086-234-2626
FAX 086-234-8300
URL <http://o-bunren.jp/>